# 2018年3月期決算説明会

2018年5月10日

**②丸文株式会社** 

© 2018 MARUBUN CORPORATION

### 本日説明のポイント

### ▶2018年3月期業績

**売上高 3,475億円(前期比 28.4%増:過去最高)** 

経常利益 42億円(前期比 59.1%増:10年ぶりの40億円超)

### ■2019年3月期業績見通し

売上高 3,150億円(前期比 9.4%減)

経常利益 43億円(前期比 1.9%増)

#### ■中期経営計画

■デバイス事業、システム事業とも着実に進捗

### Topics

- ■丸文セミコンのサムスン電子製半導体・電子部品の販売事業を譲渡
- ■ケィティーエルを丸文に統合

# 2018年3月期 連結決算の概要

© 2018 MARUBUN CORPORATION

### 2018年3月期 連結決算サマリ (前期比)

### ▶売上高 3,475億円(前期比 768億円増)

- ■デバイス事業 通信機器向け半導体の大幅増
- ■システム事業 レーザ機器の増加

#### ▶営業利益 37億円(前期比 8億円増)

- ■売上総利益 売上増で5億円増加
- 販管費 退職給付費用など3億円減少

### ▶経常利益 42億円(前期比 15億円増)

■営業外収益 為替差益の計上

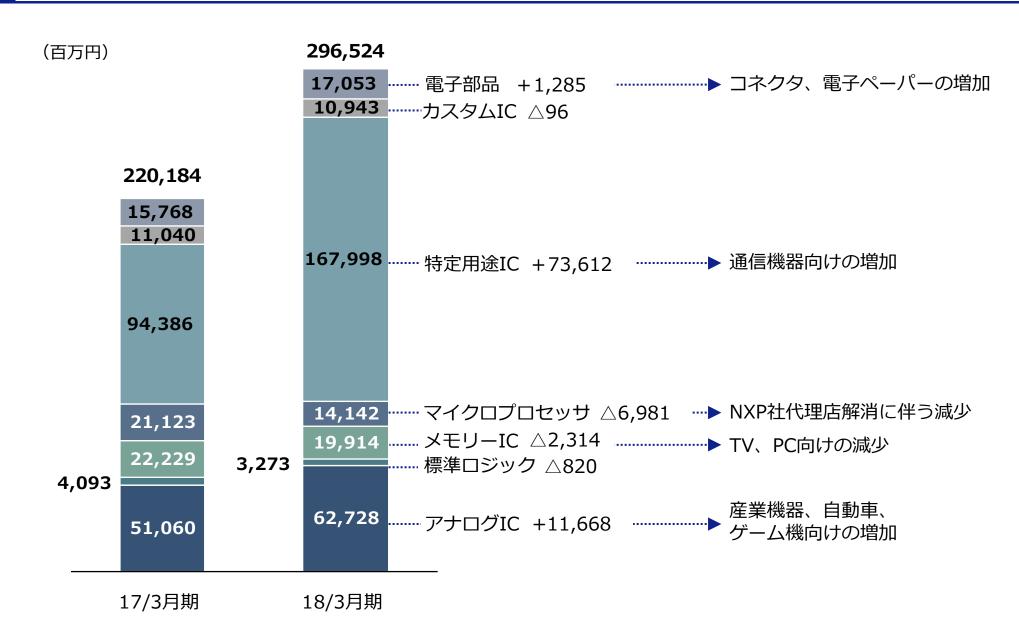
### ▶ 当期純利益 20億円(前期比 4億円増)

■特別損失 投資有価証券評価損

# 2018年3月期 業績サマリ

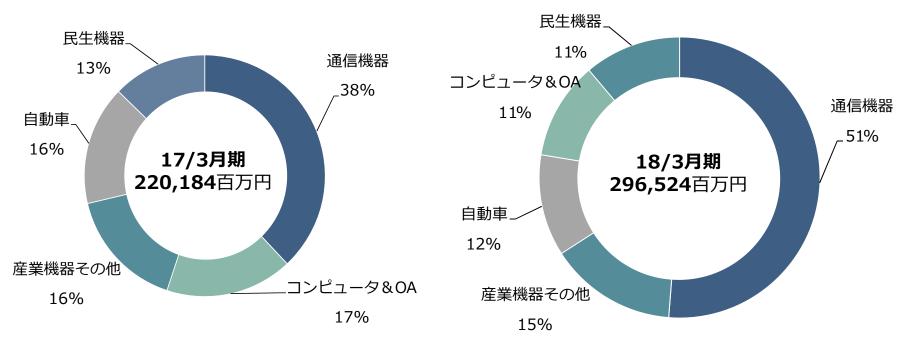
(百万円)	17/3月期 18/3		月期	前年同期比		
	実 績	構成比	実績	構成比	金額	%
売上高	270,698	100.0%	347,508	100.0%	76,810	28.4%
デバイス事業	220,184	81.3%	296,524	85.3%	76,340	34.7%
システム事業	50,513	18.7%	50,983	14.7%	470	0.9%
売上総利益	20,612	7.6%	21,161	6.1%	549	2.7%
販管費	17,729	6.5%	17,390	5.0%	△ 339	-1.9%
営業利益	2,883	1.1%	3,771	1.1%	888	30.8%
営業外収益	705	0.3%	1,773	0.5%	1,068	151.5%
営業外費用	937	0.3%	1,327	0.4%	390	41.6%
経常利益	2,651	1.0%	4,218	1.2%	1,567	59.1%
特別利益	1	0.0%	6	0.0%	5	328.6%
特別損失	65	0.0%	311	0.1%	246	378.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,650	0.6%	2,077	0.6%	427	25.9%
期末従業員数(名)	1,397	-	1,381	-	△ 16	-1.1%

### 2018年3月期 『デバイス事業』品目別売上高



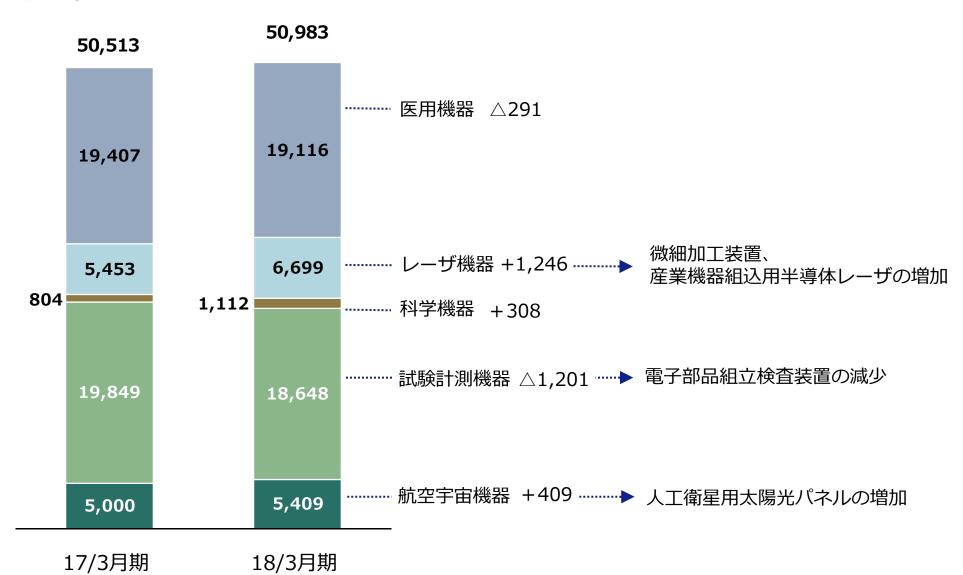
# 2018年3月期 『デバイス事業』用途別市場動向

用途	市場動向
産業機器その他	工作機械などFA機器向けが増加
自動車	NXP社代理店解消の影響も車内通信向けで増加
通信機器	通信端末向けが大幅増
コンピュータ&OA	PC向けが減少
民生機器	ゲーム機向けが増加

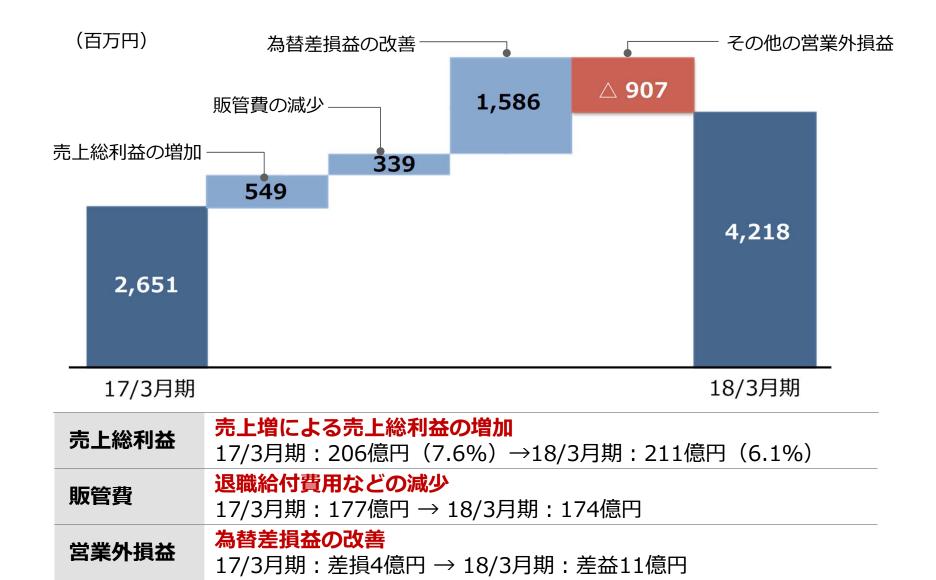


# 2018年3月期 『システム事業』品目別売上高

(百万円)



# 2018年3月期 経常利益の増減要因



# 2018年3月期 貸借対照表の概要

(百万円)	17/3月期末	18/3月期末	前期末比	主な増減理由	
	実績	実績	増減額		
資産合計	125,984	135,796	9,812	現金及び預金	1,405
流動資産	113,711	123,322	9,611	受取手形及び売掛金	△ 4,623
固定資産	12,273	12,474	201	商品及び製品	15,602
負債合計	78,434	86,619	8,185	支払手形及び買掛金	△ 740
流動負債	67,272	75,765	8,493	短期借入金	9,610
固定負債	11,161	10,854	△ 307		
				株主資本	1,453
純資産合計	47,550	49,177	1,627	その他の包括利益累計額	△ 124
				非支配株主持分	297

# 2019年3月期 業績予想の概要

© 2018 MARUBUN CORPORATION

### 2019年3月期 業績予想サマリ

### ▶売上高 3,150億円(前期比 325億円減)

■ デバイス事業 340億円減収: 通信機器向けの反動減、サムスンビジネス事業譲渡

■システム事業 15億円増収: 航空宇宙機器、レーザ機器の増加

#### ■営業利益 47億円(前期比 9億円増)

■売上総利益 売上総利益率の改善

■ 販管費 人件費の増加

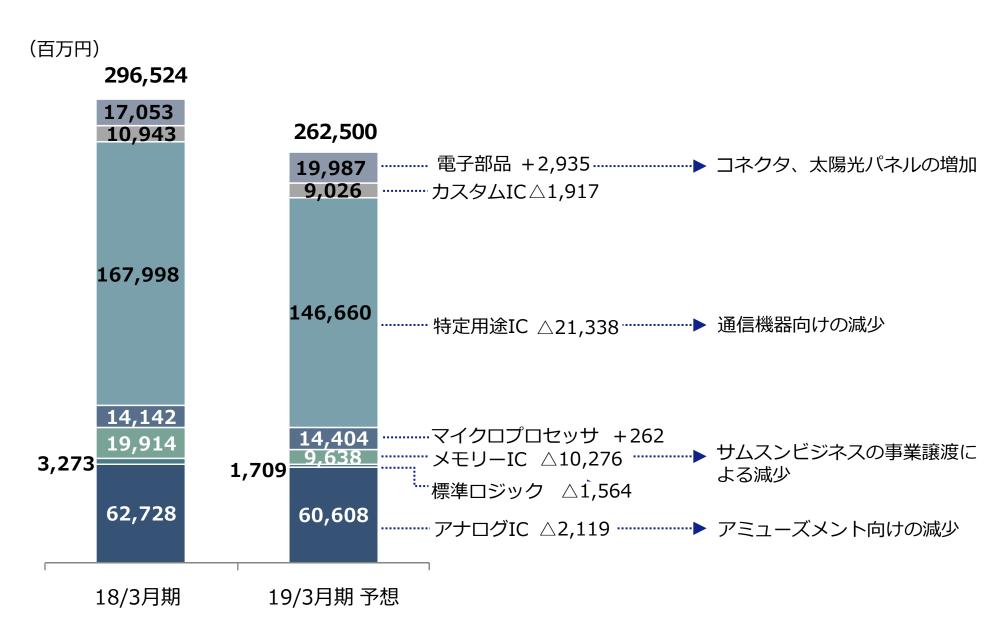
#### ■経常利益 43億円(前期並み)

▶ 当期純利益 25億円(前期比 4億円増)

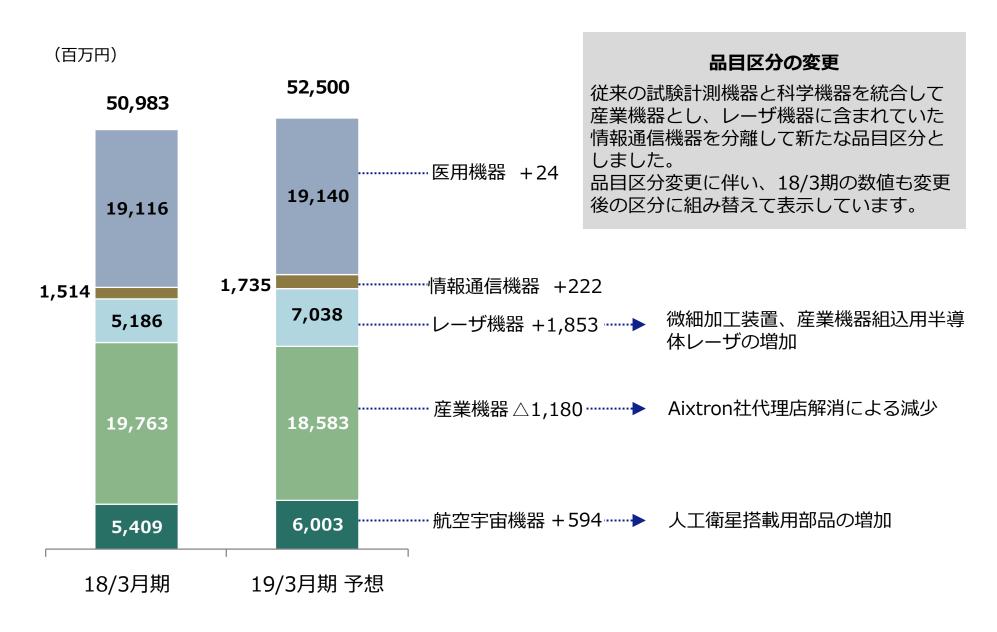
# 2019年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	18/3月期		19/3月期		前期比	
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	増減率
売上高	347,508	100.0%	315,000	100.0%	△ 32,508	-9.4%
デバイス事業	296,524	85.3%	262,500	83.3%	△ 34,024	-11.5%
システム事業	50,983	14.7%	52,500	16.7%	1,517	3.0%
売上総利益	21,161	6.1%	22,500	7.1%	1,339	6.3%
販管費	17,390	5.0%	17,800	5.7%	410	2.4%
営業利益	3,771	1.1%	4,700	1.5%	929	24.6%
営業外収益	1,773	0.5%	550	0.2%	△ 1,223	-69.0%
営業外費用	1,327	0.4%	950	0.3%	△ 377	-28.4%
経常利益	4,218	1.2%	4,300	1.4%	82	1.9%
特別利益	6	0.0%	-	-	△ 6	-
特別損失	311	0.1%	-	-	△ 311	-
親会社株主に帰属する当期純利益	2,077	0.6%	2,500	0.8%	423	20.4%

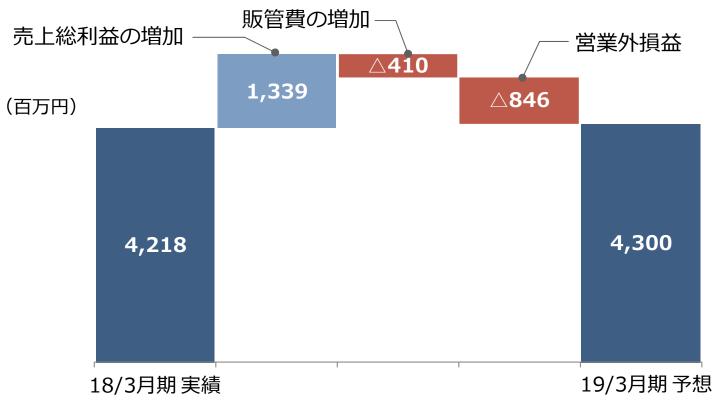
# 2019年3月期『デバイス事業』品目別売上高予想



## 2019年3月期『システム事業』品目別売上高予想



# 経常利益の増減要因(前期 vs. 予想)



売上総利益	<b>売上総利益率改善による増加</b> 18/3月期:211億円(利益率6.1%) →19/3月期予想:225億円(7.1%)
販管費	<b>人件費・業務委託費・減価償却費の増加</b> 18/3月期:174億円 → 19/3月期予想:178億円
営業外損益	<b>為替差損益</b> 18/3月期:為替差益11億円 → 19/3月期予想:差損益を見込まず

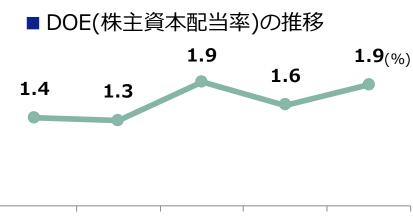
# 株主還元

© 2018 MARUBUN CORPORATION

## 株主還元

## 配当方針

配当性向 連結30%以上



14/3月期 15/3月期 16/3月期 17/3月期 18/3月期

### 配当予想

(円)	18/3月期	19/3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	30.00	30.00
中間配当	10.00	10.00
期末配当	20.00	20.00
	(記念配当5円含む)	20.00

# 中期経営計画 事業戦略と重点施策

© 2018 MARUBUN CORPORATION

### 事業環境

#### 半導体メーカーの動向

### 大型のM&Aは 依然として大きな注目

#### 海外

さらなる集約化の動き

#### 国内

● 東芝半導体の売却

### エレクトロニクス市場

### 先端技術のイノベーション による新たな市場の広がり

- IoTなど複合技術の深化
- 自動運転技術の開発競争
- ロボット・ウェアラブルデバイス の活用

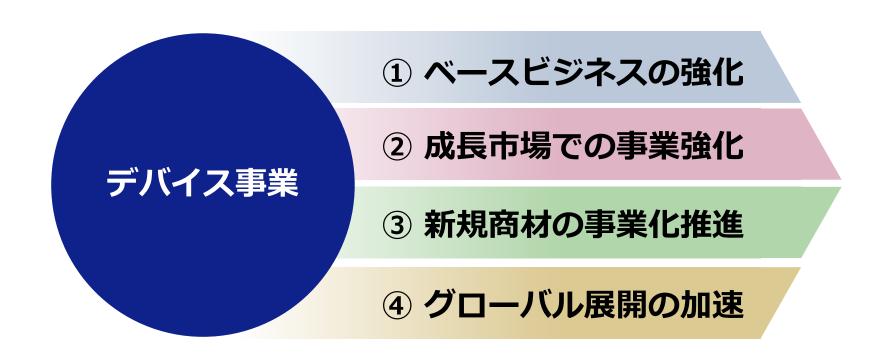
## 2016-2018年度 中期経営計画方針

#### 2019年3月期を最終年度とする中期経営計画

業界再編への対応、 キャッチアップ イノベーションへの 積極投資による 新規事業創造

資本効率の向上

## 『デバイス事業』 4つの取り組み

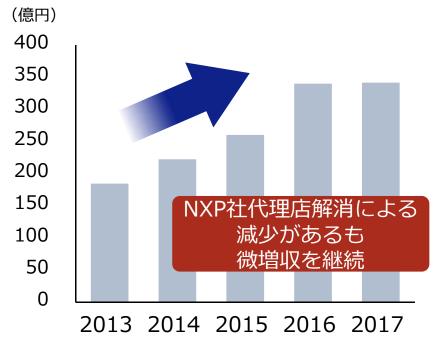


### ① ベースビジネスの強化

#### ▮顧客シェアの拡大

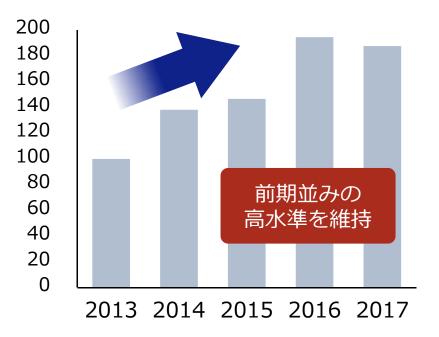
- 電源やセンサー、車載分野でのソリューション提案の強化
- アナログ、ワイヤレスなどのキーデバイスの販売体制の拡充

#### 自動車市場向けビジネスの伸び



#### 新規プロジェクト案件の発掘数

(2013年度を100とした推移)



### ① ベースビジネスの強化

#### ■マスマーケット市場に向けた販売体制の強化

- ■専従組織を新設し、新規顧客を開拓
- デジタルマーケティングを推進

#### ▶ケィティーエルの事業統合

- 2018年10月1日付で丸文と事業統合(2018年5月8日発表)
- ■産機・自動車など注力市場へリソースを結集
- ■経営の効率化を推進



## ② 成長市場での事業強化

**■ IoTソリューション 当社のターゲット領域** LoRa/LoRaWanを採用した エンドデバイスから クラウドサービスまでの エコシステムを構築 農作物発育管理 浄水場水質管理 スマートロック・見守りサービス 重機稼働率モニター 広告配信・サイネージ ガス・水道メータ ドライブレコーダー

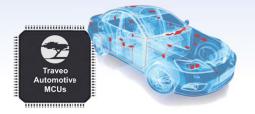
## ② 成長市場での事業強化

#### 【IoT関連

### Cypress社

#### ■ IoT製品

● 自動車向けで売上増加



#### Telit社

#### ■無線通信用IC

- スマートメータで採用
- 社会インフラへ拡販



#### Afero社

#### ■ IoTプラットフォーム 向け製品

スマートロック等で採用促進



#### ■ 医療分野

#### MC10社

■バイオセンサー





- 人工膝関節のリハビリ向け
- 循環器系疾病予防で大学研究機関との共同研究を推進

## ③ 新規商材の事業化推進

### 最先端でユニークな特長をもった技術を発掘

#### FINsix社(当社:国内総代理店)

#### ■新たなビジネス展開が始動

- FINsix社とトヨタ自動織機との間 で開発契約を締結
- 自動車用パワーエレクトロニクスモ ジュールの小型・軽量・高効率化
- 幅広いレンジのパワーエレクトロニクスモジュール

の開発を推進



#### ■ PC用超小型電源アダプタ 「Dart」

- USB (タイプC) モデルの開発
- B2Cの販路の拡大、拡充



# ④ グローバル展開の加速



ヨーロッパにおける新たな 拠点開設、新規顧客の拡大

事業規模の早期拡大

#### アジア・北米

メキシコへの日系企業の 進出により、売上拡大

今後は鉄道関係などの顧客開拓





## 『システム事業』の取り組み



エンジニアリングサービスの拡充 システムインテグレーションの強化

# 『システム事業』分野別の取り組み

#### 航空宇宙機器

- ■ロケットや航空機、電力設備向け注力
- ■レーダ設備・センサーの校正サービス拡大で 収益基盤を強化



#### レーザ機器

- ■産業機器組込み用レーザを拡販
- ■医療機器向け高輝度光源を拡販



### 『システム事業』分野別の取り組み

#### 情報通信機器

- ■東京五輪に向け5G通信、自動運転技術への投資が拡大
  - PCTEL社スキャニングレシーバ
  - Napatech社ネットワークアダプタ
- ■競争力ある製品を通信キャリヤ・データセンター向けに拡販
  - Finisar社光トランシーバ



PCTEL社 通信干渉源特定ツール

#### 医用機器

- ■各仕入先の取扱商材の拡充
- エンジニアの増強によるメンテナンスサービスの拡充



# 参考情報

© 2018 MARUBUN CORPORATION

### 企業概況

#### 会社概要

創 業	1844年(弘化元年)		
設 立	1947年(昭和22年)7月		
所在地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号		
資 本 金	62億1,450万円		
決算期日	3月31日		
代 表 者	代表取締役社長 水野象司		
売 上 高	連結 3,475億円(2018年3月期) 単体 2,278億円(2018年3月期)		
従業員数	連結 1,381名(2018年3月末) 単体 670名(2018年3月末)		
株式上場	東京証券取引所 市場第一部(コード:7537)		

#### 事業領域

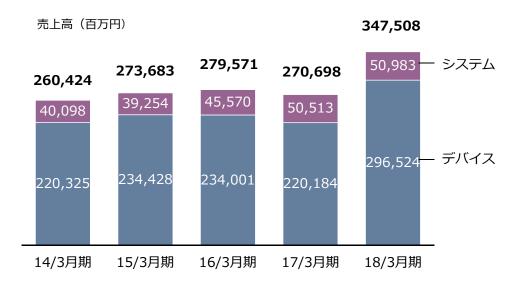
#### デバイス事業

- 半導体
- 電子部品

#### システム事業

- 航空宇宙機器
- 産業機器
- レーザ機器
- 情報通信機器
- 医用機器

#### ▮連結売上高の推移



### 沿革

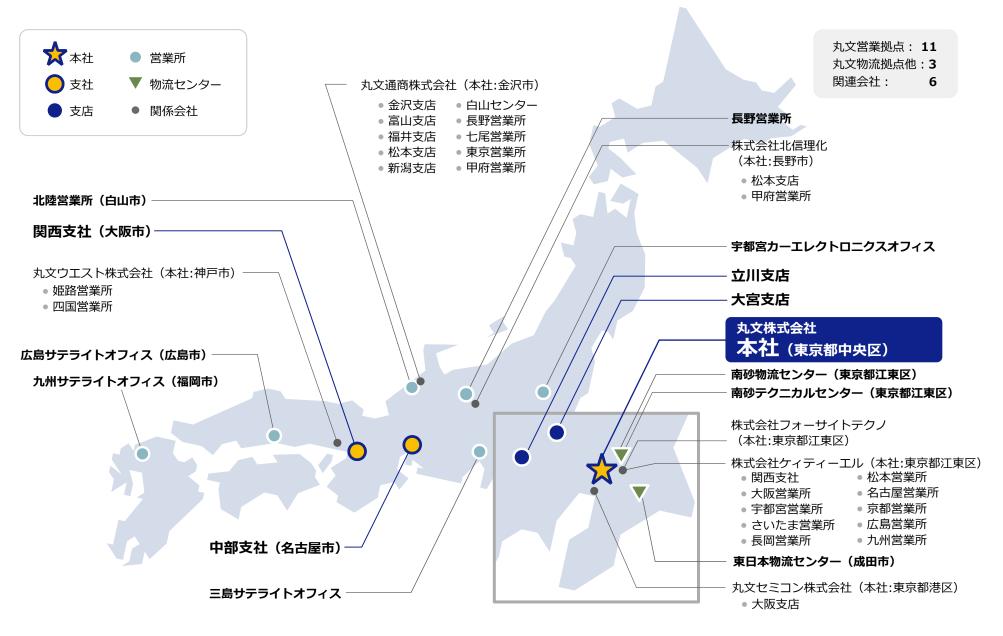
#### 玉 内 2017 -丸文通商が池田医療電機を吸収合併 2016 — ケィティーエルを子会社化 2015 — 池田医療電機を子会社化 2013 — 北信理化を子会社化 2007 — フォーサイトテクノを子会社化 2005 — 丸文セミコンを子会社化、丸文ウエストを設立 2001 —— 東京証券取引所市場第一部上場 1997 —— 東京証券取引所市場第二部上場 1985 物流機能強化のため、物流センターを設置 1965 Texas Instruments社製集積回路を国内で 初めて輸入販売 1961 金沢支店を分社し、丸文通商を設立 1952 Rocke International社と代理店契約し、独自での米国製 機器の輸入販売を開始 1947 機械器具、日用雑貨類の販売と輸出入を目的に丸文株式会社を設立 1897 呉服問屋を停止し、資産管理を目的に堀越事務所を設立 1844 現本社所在地で呉服問屋「堀越」(屋号「丸文」)を創業



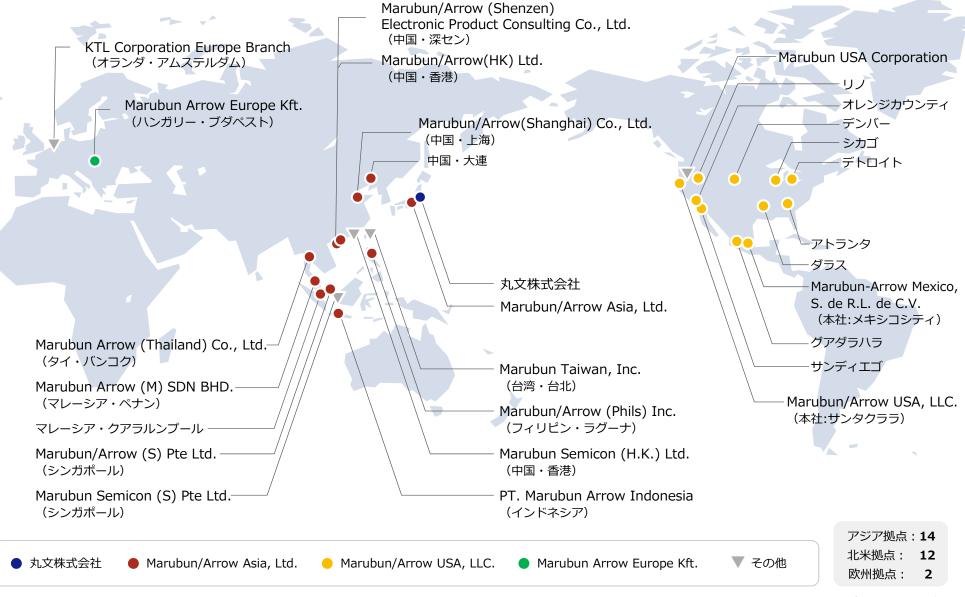
# 中長期トレンド(売上高・海外売上高比率)



### 国内拠点



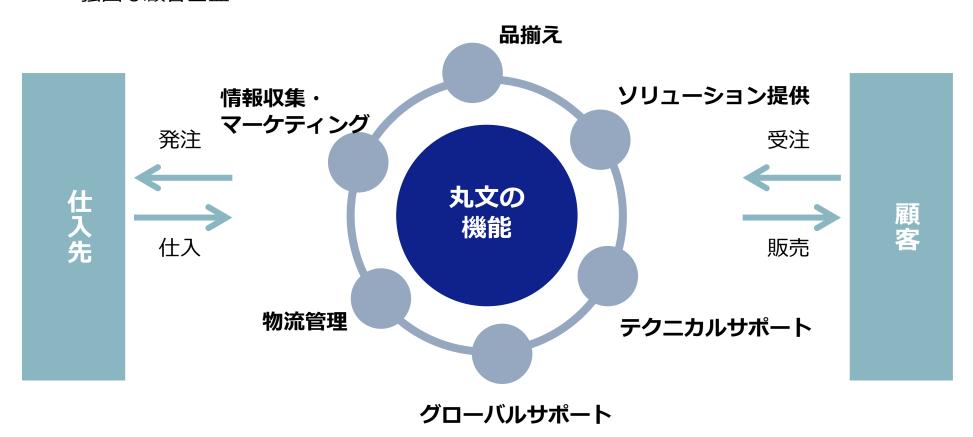
### グローバルネットワーク



(2018年5月現在)

### デバイス事業:特徴と強み

- ■海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- ■米国アロー社(80ヶ国、345拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- ■高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- ■強固な顧客基盤



# デバイス事業:グループ会社概要

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事業內容		
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の 仕入販売		
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%			
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	エノへ対象プロ		
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社		
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売		
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、 丸文アロー香港の持株会社		
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%			
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%			
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%			
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%			
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%			
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	海外進出した日系企業への		
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	半導体・電子部品の仕入販売		
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%			
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%			
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50.0%			
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50.0%			
株式会社ケィティーエル	東京都江東区	1966年11月	100.0%	半導体・電子部品の仕入販売		

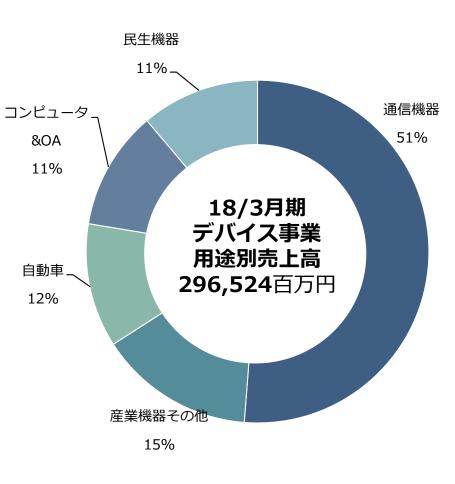
<sup>\*</sup> Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

# デバイス事業:取扱製品(サプライヤ別)

			サプライヤ (アルファベット順)														
			旭化成 エレクトロニクス	Broadcom (米国)	Cypress (米国)	Eink (台湾)	FINsix (米国)	IDT (米国)	Littlelfuse (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Qorvo (米国)	Samsung (韓国)	SanDisk (米国)	セイコーエプンン	セイコーインスツル	TexasInstruments (米国)
	アナログIC		•	•					•	•		•				•	•
	標準ロジック	7IC															•
		DRAM											•				
半	メモリーIC	フラッシュ											•	•			
=		その他メモリー						•					•	•		•	
導	マイクロ	MPU、MCU													•		•
₹	プロセッサ	DSP	•														•
体		ASSP	•	•	•			•		•		•			•		•
	特定用途IC	ディスプレイドライバ											•		•		•
	特定用処に	DMD															•
		LED											•				
	カスタムIC		•										•		•		
電	表示デバイス	ζ				•							•				
子	水晶デバイス	ζ						•							•	•	
部	コネクタ・ス	スイッチ・プリント基板									•						
品	モジュール製						•										

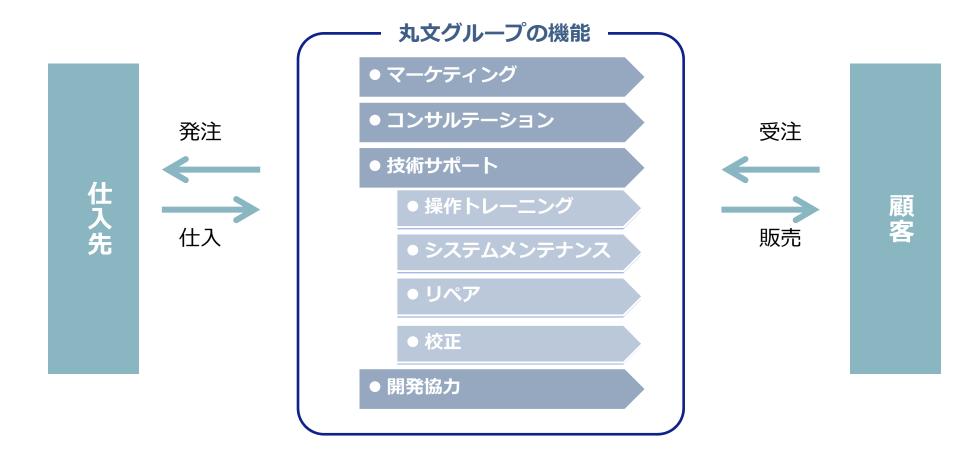
# デバイス事業:主要取扱い製品(用途別)

		通信機器	コ ン O ピ A ュ ー タ	産業機器	自動車	民生機器
半導体						
アナログIC	アナログ	•				
)	ディスクリート	•			•	
標準ロジック]	IC .	•	•		•	
メモリーIC	DRAM	•	•		•	
7-9-10	フラッシュ	•	•			
マイクロ	MPU、MCU	•	•		•	
プロセッサ	DSP	•			•	
	ASSP	•			•	
特定用途IC	ディスプレイドライバ	•	•		•	
付足用述に	DMD	•	•		•	
	LED	•	•			
カスタムIC		•	•		•	
電子部品						
表示デバイス			•		•	•
水晶デバイス						
コネクタ・スイッチ・プリント基板						
モジュール製品				•		



### システム事業:特徴と強み

- ■ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- ■システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート

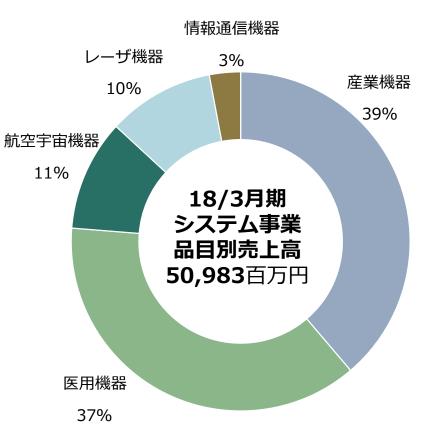


# システム事業:グループ会社概要

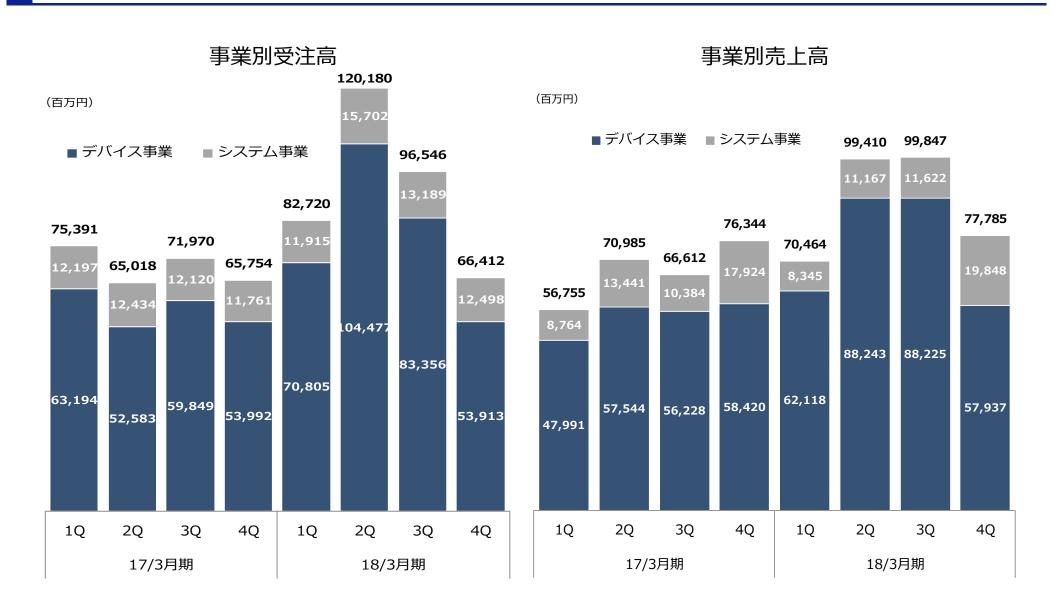
社 名	本 社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器および試験計測機器の 仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	システム製品の修理・メンテナンス、 エンジニアリングサービス

## システム事業:主要取扱い製品①

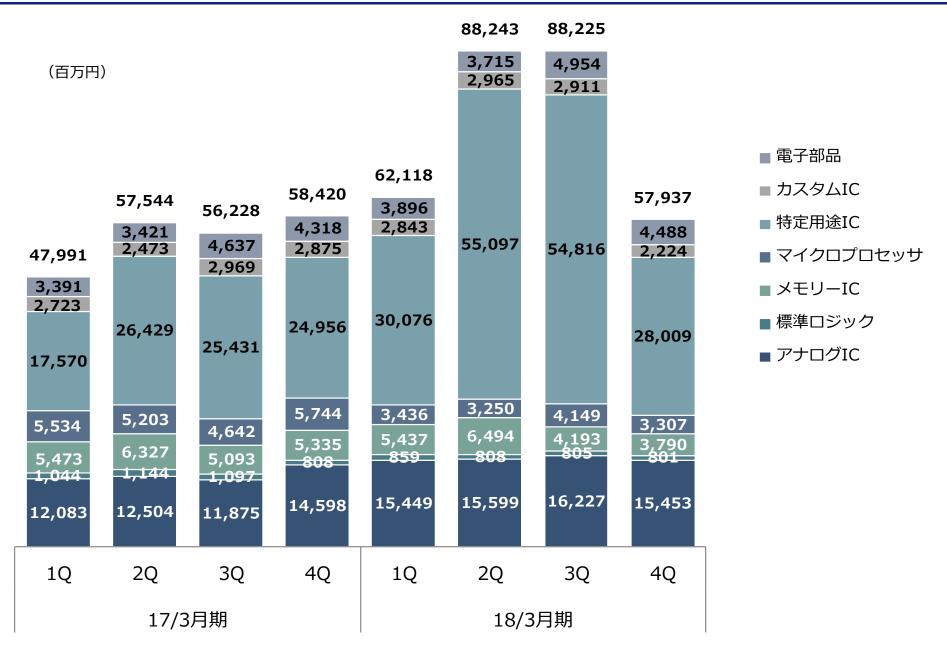
分野	主要取扱商品	主要仕入先					
産業機器	検査装置 組立・検査装置	ユニハイトシステム、FEI、島津製作所、 アキム、セイコーエプソン					
<b>庄未</b> 饭砬	組込ソリューション 科学機器	ARTESYN、Aitech、ADLINK、 LayTec、Riber					
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、 コニカミノルタヘルスケア					
人工透析機器		日機装、旭化成メディカル、 カネカメディックス					
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	nLight、Laserline					
レ タ1級品	光機器	Excelitas Technologies、 Luminus Devices、First Sensor					
航空宇宙機器	宇宙関連機器 計測・センサ	Tele Communication Systems、 GEセンシング、Meggit、Plascore					
L TTOWN	航空関連機器 高周波電子機器	TEXTRON、L3 Technologies、CPI、Bird					
情報通信機器	RF・光通信 測位タイミング	PCTEL、Finisar、EXFO、 Microsemi、Calnex、Spirent					



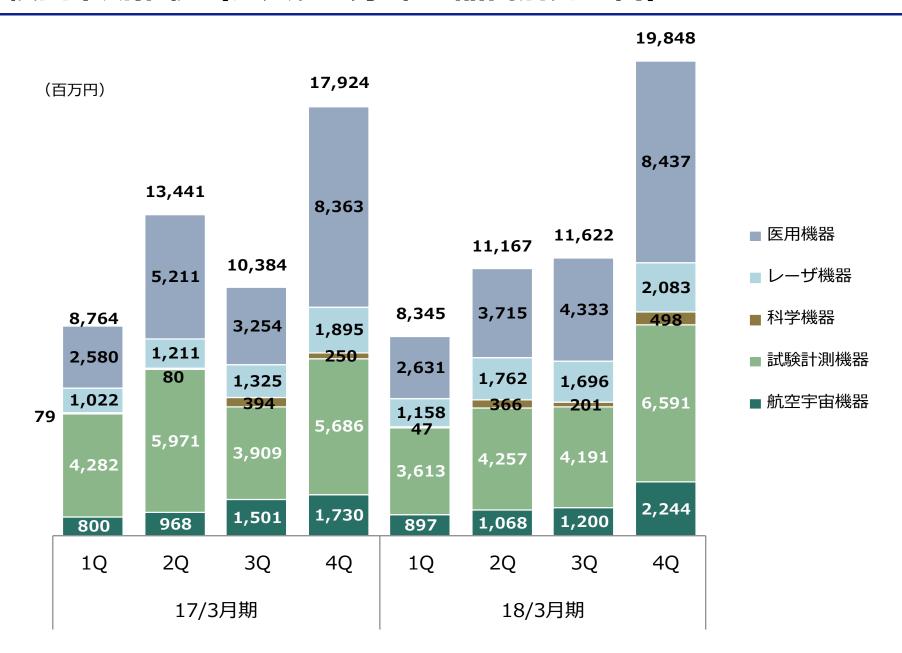
### 業績四半期推移(事業別受注高・事業別売上高)



### 業績四半期推移(デバイス事業:品目別売上高)



### 業績四半期推移(システム事業:品目別売上高)



### 本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び 合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により 異なる可能性がありますことをご承知おきください。

#### 本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp